

寄稿 3

那智勝浦から挑む、 地方観光と 地域経済の未来

—観光産業を軸とした地域共創
モデルの実装に向けて—



浦島観光ホテル株式会社
代表取締役社長

松下 哲也



まず初めに、本年4月、和歌山県知事・岸本周平様のご逝去されたことに対し、心より哀悼の意を表します。地域経済と観光振興に尽力されたそのご功績に深く敬意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

はじめに

2025年3月、那智勝浦を含む紀南エリアに嬉しいニュースが届きました。

世界的ニュース誌『TIME』が発表した「2025年 世界で訪れるべき場所」の一つに、「那智大社・青岸渡寺」が選出されました。さらに、メジャーリーガー大谷翔平選手が所属するロサンゼルス・ドジャースの日本開幕戦後に開催された夕食会では、「那智勝浦産の生マグロ」が解体ショーとともに振る舞われ、その様子が各メディアで大きく報じられました。

選ばれたこの地・那智勝浦は、熊野古道の玄関口であり、世界遺産に囲まれた歴史的・文化的価値を持つ地域です。加えて、生マグロや温泉など観光資源にも非常に恵まれており、今後は国内外からの観光客のさらなる増加が期待されています。町を挙げてこの盛り上がりを歓迎しており、私たちもその一翼を担えることを誇りに思っています。この観光資源豊かな地において、当社・浦島観光ホテル株式会社は創業以来69年間、地域とともに歩みながら、観光産業を通じて地域経済の振興に取り組んでまいりました。



那智大社・青岸渡寺
(TIME 誌選出の象徴的スポットとして)

また当社は、2023年12月に前経営者から事業譲渡を受け、2024年1月より株式会社日本共創プラットフォーム（JPiX）を親会社とした新たな経営体制へと移行しました。和歌山県内外の皆さまの変わらぬご支援により、来たる2026年には創業70周年を迎える運びとなっております。改めて、これまでのご支援に心より感謝申し上げます。

さて、いま日本各地の地方が直面している課題は、かつてない複雑さを帯びています。人口減少、少子高齢化、産業構造の空洞化、人手不足——。こうした構造的な問題に対し、私たちは“観光”という持続可能な産業の可能性にあらためて光をあて、「地域経済の幹」として機能する事業モデルの構築を目指しています。その中核となるのが、2026年に予定している旗艦施設「ホテル浦島」のリニューアル×DX戦略です。加えて、一次産業や地元企業との共創、そして従業員と利益を分かち合う経営モデルを取り入れ、地域・人財・資本を有機的に結びつけた包括的な地域共創モデルの実現に向けて、日々奮闘を続けております。

現在は多くの課題と向き合いながらも、私たちは“地方観光のモデルケース”となることを目指し、「新しい浦島のかたち」の実現に向けて、役員・従業員一同、挑戦を続けています。さらに、このたび那智勝浦町が国の「地方創生支援制度」において支援対象市町村に

選定されたことは、私たちの取り組みに大きな希望を寄せることができていると感じています。今後は、国から派遣される「地方創生支援官」をはじめとした行政関係者の皆さまとも密接に連携し、地域に根差した具体的な施策の立案・実行にいつそう注力してまいります。民間と行政が一体となって地方創生を推進し、那智勝浦から“地方観光の発展”を実現していくロールモデルを構築していきたいと考えています。

官民フォーラムでの発信と、 国全体への展開可能性

2025年1月27日、当社は首相官邸で開催された「国内投資促進のための官民連携フォーラム」に、参加の一社として選定されました。この場において、当社の地域観光に関する取組について、石破内閣総理大臣をはじめとする閣僚・政府関係者の皆さまに向けて発表する機会を頂きました。当日の発表テーマは、「観光の力で地方共創へ 浦島観光ホテルの挑戦 経営×投資の力で人手不足を乗り越える」というものです。

発表の中では、観光産業が単なるサービス業にとどまらず、地域産業の活性化、外貨獲得、人材の循環、さらには教育や福祉分野への波及など、地域社会を支える“基幹インフラ”であることを強調いたしました。特に、「観光を起点とした投資循環モデル」が、地方に



官民連携フォーラムでの写真

おける民間投資と雇用創出を同時に実現する、次世代型の地域政策の対象となり得るという提言に対しては、石破内閣総理大臣をはじめ多くの閣僚、および関係者、出席団体の皆さまから強い共感をいただくことができました。

今後は、こうした視点をもとに、自治体・大学・研究機関・企業といった「官・民・学」のネットワークをさらに拡充し、那智勝浦を起点とした当社のモデルが、全国各地で展開可能な地域再生の実証事例となることを目指してまいります。

新しい「浦島」のかたち

今回のリニューアルプロジェクトにおいて、私自身が強い想いを持って核として据えているのは、「食」への追求です。旅行や観光において、訪問先を決める際の大きな要素となるのが「食」であり、それは地域の個性や文化を最も鮮やかに伝える手段でもあります。特に、地方における観光振興において、「食」は誘客効果の高い、非常に重要な価値要素だと確信しています。しかしながら、かつてホテル浦島に寄せられていた「食」への評価は、非常に厳しいものでした。長年にわたり、お客様のご期待に十分に答えられていない状況が続いていたことは、私たちにとって大きな反省材料でもありました。

そこで、新経営体制の発足直後から「食の改革」に着手し、数か月後の2024年夏にはバイキング料理のメニューを全面的に刷新しました。さらに、2025年1月からはビール、ワ



ホテル浦島 バイキングレストラン 飲み放題

イン、そして地元・和歌山産の梅酒などを含むアルコールの飲み放題も導入し、現在では多くのお客様から一定の評価と手応えを感じられるようになってきています。そして、2026年に予定しているリニューアル計画においては、ビュッフェレストランの大規模改装を盛り込み、さらに「食の魅力」の訴求を強化していく方針です。

また、「温泉」や「絶景」といった既存資源に加えて、熊野古道や那智大社といった“精神的な風景”との融合も図り、旅人の内面に働きかける体験価値の創造にも取り組んでいます。こうした価値を視覚的にも伝えるため、2024年秋には公式ホームページを全面的にリニューアルし、旅の前段階から“熊野らしさ”や“心を癒す旅”の世界観が感じられる構成としました。今後は、施設設計・動線・接遇においても、多世代旅行やインバウンド需要、ウェルネス志向といった多様な旅行ニーズに対応できる柔軟性を持たせながら、次世代型の観光拠

点としての再構築を進めてまいります。

「洞窟温泉の浦島」という伝統的なブランドイメージに加え、「食の浦島」という新たな魅力を融合させ、全社員とともに“新しい浦島のかたち”を創り上げていく所存です。



ホテル浦島バイキング『熊野キューズ』

DXによる観光の高度化と人財強化

人手不足が深刻化し、高齢化も進む中、企業にとってDX（デジタルトランスフォーメーション）は、今や避けて通れない重要な経営課題となっています。多くの企業がDX導入に取り組み、またはその検討を進めておられる中で、私たちも例外ではありません。しかし、地方の宿泊業においては、DX化は決して容易なものではないことを、強く実感しています。私が着任した当初、社内にはITやデジタルの基盤すら十分に整っておらず、多くの業務が紙ベースで運用されている状況でした。そうした中で、いきなり高度なDX化を目指すのではなく、まずは従業員が使いやすく、日々の業務に取り入れやすい簡易なIT化から着手しました。

地道な取り組みを積み重ねた結果、1年あまりが経過した現在、社内には少しずつ変化が生まれ、一定の効果も現れつつあります。この手応えを受け、次のステップとして、2026年のホテル浦島リニューアルにあわせて、宿泊業務基幹システム（PMS）の全面刷新を決定しました。さらに、IoT・AI・クラウドといった先端技術を活用し、スマートチェックインの導入、業績管理の可視化、そして従業員教育や評価制度のデジタル統合を段階的に進めていく予定です。これにより、限られた人員でも高品質なサービスを安定的に提供できる体制を築くとともに、お客様にとってもより快適でスムーズな滞在環境を実現したいと考えています。

また、待遇面においては2024年10月には全



スタッフの皆さん、ありがとう！

社員に対するベースアップ（一般社員10%、パートタイマー7%、管理監督者5%のUp）を行い、収益を従業員に還元する「成果と誇りが循環する経営」を実施しました。このような人財戦略と報酬戦略の両立によって、人手不足の解消だけでなく、地元人財の定着や地域社会への信頼の再構築にもつなげています。

観光と一次産業が共鳴する地域経済モデル

地域観光を強くするには、農業・漁業との“本質的な連携”が不可欠だと考えており、単なる食材調達先ではなく、価値共創の強力なパートナーシップだと考えています。

すでにホテル浦島では新バイキング料理「熊野キュージーヌ」の開発において生産者とともに企画段階から関わり、ストーリー性のある料理を提供しています。さらに今後は、和歌山県産の梅酒・日本酒を用いたオリジナル商品の開発にも取り組み、観光を通じて地元産品のブランド力向上と販路拡大を図りたいと考えています。これはいわば「6次産業化の観光版」であり、他地域では観光を媒介とした地域経済の自律的成長モデルとして評価されています。

地域共創の実証フィールドとしての可能性

私たちが進めるプロジェクトは、観光業の枠を超えた地域共創の社会実装でもあります。観光×DX×第一次産業の横断的融合により、持続可能な地方経済モデルの構築を進めており、自



最高級の食材を集めた「熊野の至宝懐石」

治体政策・企業投資・学術研究の実証フィールドとしての活用も見据えています。熊野古道という世界的文化資源に立脚しつつ、未来型観光を実装するこの地を、「地域経済の再設計の現場」として、「官・民・学」の皆様とともに発展させていければと願っております。

私たちは、観光が「心を動かす楽しい産業」であると同時に、「経済と社会を動かす産業」であると信じています。那智勝浦から始まるこの挑戦が、和歌山の、そして日本の地方創生の一助となるよう、これからも全社一丸で取り組んでまいります。



ホテル浦島全景